

# 自立活動グループ

共同研究者	平成 15・16・18 年度	大井 学	(金沢大学教育学部教授)
	平成 15 年度	小林 宏明	(金沢大学教育学部准教授)
	平成 17 年度	小林 早苗	(アスベの会・金沢エルデの会 サブディレクター)
	平成 19 年度	河合 隆平	(金沢大学教育学部准教授)

## 1. グループの概要

### (1) グループの紹介

本グループは目の前にいる子ども一人一人と向き合い、その課題に対する適切な支援のあり方について実践研究をするグループである。

### (2) 研究の進め方

- ・各自が研究テーマを設定し、研究を進める
- ・原則として毎週火曜日にグループ研究会を行う
- ・グループ研究会では、各自の研究経過報告およびケース検討や学習会を行う

## 2. これまでの研究について

### (1) 実践事例の蓄積

平成 15 年度 5 事例、平成 16 年度 7 事例、平成 17 年度 2 事例、平成 18 年度 3 事例、平成 19 年度 4 事例と、この 5 年間で 21 事例の実践研究が蓄積された。指導は「心理的安定」や「コミュニケーション」に関した取り組みとなっている。具体的なテーマおよび内容については、資料 1「指導事例一欄」を参照されたい。

### (2) これまでの実践研究を振り返って

これまでの 21 事例の実践を分析した結果、「指導において大切に考えてきたこと」として、次のようなことが整理できた。

子どもの捉え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの実態を捉えるために適した発達検査を選択して実施する</li> <li>・子どもの様子や周りの人の対応など、日ごろから行動観察をして、状況を把握する</li> <li>・家庭での様子や以前までの状況、医療面での診断など、子どもに関する情報を確認する</li> <li>・それまでにかかわった教師や担当者から指導面での助言を受ける</li> <li>・障害特性を理解し、子どもの行動の背景や要因を検討し分析する</li> </ul>
指導場面の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの主体的な行動や要求が多く出やすい場面を選択する</li> <li>・子どもや教師、保護者にとっての必要性が高いと感じられる場面を設定する</li> <li>・もう少しの積み重ねで課題の達成が期待できる場面を選択する</li> <li>・日常的に指導の頻度が高く、積み重ねの効果が期待できる場面を選択する</li> </ul>
活動や題材の選択	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが好きな活動や題材を選択する</li> <li>・子どものもっている認知力や模倣力、手指の巧緻性などを活かせる、得意な活動や題材を設定する</li> <li>・子ども自身が必要としている身振りサインやことばなど、子どもの立場にたった内容を選択する</li> </ul>

教材・教具の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の流れを一定化する</li> <li>・スケジュール表等を活用する</li> <li>・実物や写真、コミュニケーションカード、減時タイマー、VOCA等を活用する</li> <li>・子ども自身が便利だと感じる道具、操作や携帯がしやすい道具の工夫や改良</li> <li>・子どもが扱いやすい材質や種類、色、大きさ、量などを配慮する</li> </ul>
教師の働きかけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが「わかる」「できる」「伝わる」といった喜びを感じられる、成功体験を積み重ねられるようなかわり方をする</li> <li>・子どもの自己肯定感や自己有能感を高めるための、褒める、認めるかわり方をする</li> <li>・子どもと共感し、ともに活動や雰囲気共有する声かけや姿勢を心がける</li> <li>・望ましい行動やコミュニケーション方法のモデルを提示する</li> <li>・子どもからの発信を促し、じっくり待ち、受け止めて返すかわり方を心がける</li> <li>・子どもからの行動や発信の仕方に対して、子どもへのフィードバックを心がける</li> </ul>

子ども自身が意欲をもって活動に取り組めることを最も大切に考えてきた。場面の設定、教師の働きかけ、教材・教具などの準備、障害特性を考慮した環境整備等、すべてが子どもの意欲を引き出すための工夫や配慮であるといえる。子どもが自ら取り組みたい、必要である、と感じることが目標にせまるための大切な要素である。

### 3. 研究の成果

#### (1) グループ研究での学び

本グループでは、指導事例の種類や数を蓄積していくことで、新たな目の前の子どもの指導の参考になる引き出しを増やすことを目指してきた。5年間にわたって、多くの指導事例について話し合いを行い、子どもの実態のいろいろな見方や捉え方を学んだ。大学教員や他機関の専門家、子どもの担任や管理職も交えた「ケース検討会」を継続してきたことで、子どもの実態を共通理解し、指導の連携も図ることができた。また、「発達検査の紹介と解釈」「軽度発達障害の理解と指導」「VOCAの使い方」「マカトンサイン」等の学習会をもったことで子どもを支援するための、種々の考え方や方法を知り、日々の指導に還元することができた。教師としての専門性が高められ、それぞれの指導における客観性を得ることができたことは大きな成果である。

#### 〔実態把握と指導の方法における専門性を活かした一例〕

- ・「発達検査の紹介と解釈」の学習会を受けて、知能検査では測定不能であった児童生徒に新版K式発達検査を実施し、発達面での実態把握を適切に行うことができた。
- ・事例14では「マカトンサイン」の学習会を受けて、身振りサインの指導の参考にすることで、対象生徒がサインを使って気持ちを伝える姿が増えた。

#### 〔指導や評価に客観性をもてた一例〕

- ・事例15では「立つ」という身振りサインの指導で、やりとり遊びの中では「立つ」という身振りサインがでていたが、実際の立つ場面で使えない様子が観察された。担当者は

「立つ」という身振りサイン指導は本生徒にとって意味がないと評価したが、ケース検討会では「サインが実用面で使えなくても遊びの中で出てくるということは、子どもがそのサインで人とかかわろうとする姿勢の表れであると同時に、それを使うことによって本人が楽しめるということであり、意味のあることと思われる。」という意見をもらった。ここで新しい見方、評価の視点を学ぶことができた。

### (2) 発達検査の学校全体への汎化

本校では、必要に応じて個々に実施する発達検査とは別に、小学部1・4年生と中学部1年生についてはKIDSを、高等部1年生にはKIDS、またはS-M社会生活能力検査を必ず実施することになっている。これは、自立活動グループでの発達検査の実施がきっかけとなり、現在では、児童生徒全員に実施し、実態把握のための参考資料として位置づいたものである。

### (3) 今後の課題の明確化

一人一人の子どもの視点にたった指導を行うにあたっては、まだまだ研究を深め、研修を積み重ねていく必要性を痛感している。特に次のような点が課題として明確になった。

- ・一人一人の子ども自身のニーズ（望み、要求、欲求、困り感 など）の捉え方
- ・今後の指導により活用できるような、指導事例の蓄積方法の検討
- ・アセスメントの結果の解釈や分析、評価の仕方

## 資料1 「指導事例一欄」

平成15年度

		タイトル:N児のコミュニケーション支援の試み ～散歩の試みを通して～	
1	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実物や写真カードを手がかりに散歩のイメージをもつ。</li> <li>・「ない」「おしまい」がわかる。</li> </ul>	
	方法	場面・題材等	・散歩
		働きかけ 方法論等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実物を用いての買い物やおやつの有無の予告</li> <li>・写真カードを用いた行き先、経路、お店、買う物などの予告・身振りサイン「ない」の理解</li> </ul>
指導の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実物を予告時に見せることにより、散歩の準備行動がスムーズになった。</li> <li>・実物(ミニリュック)を提示して「おやつなし」を伝えた。N児なりに理解したように思えた。</li> <li>・写真カードの使用に期待がもてたため、今後は実物だけでなく写真カードを取り入れ、散歩のより具体的なイメージがもてるようにしたい。</li> </ul>		

		タイトル:音声表出のない児童へのコミュニケーション支援	
2	目標	・音声表出のない児童とのコミュニケーションを拓げる。	
	方法	場面・題材等	・朝の会、給食後の昼休み
		働きかけ 方法論等	・インリアルによるビデオ分析
指導の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インリアルによるビデオ分析による、教師のかかわる変化によってM児の音声の表出が増えたことから、コミュニケーション意欲を高めることができたと考ええる。</li> <li>・今後もM児のコミュニケーション環境の改善と、コミュニケーション・ニーズの把握に努めたい。適切なAAC手段の導入を検討したい。</li> </ul>		

タイトル:M 児の問題行動の軽減をめざして ～人をたたいたりする行動に対して～						
3	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いを分かりやすく、言葉や文字、カードで伝えることが増える。</li> <li>・人をたたく等の問題行動を軽減し、友だちや先生と好ましいかわりができる。</li> </ul>				
	方法	<table border="1"> <tr> <td>場面・題材等</td> <td>・「予定黒板」、「予定プリント」、学校生活全般</td> </tr> <tr> <td>働きかけ 方法論等</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先行条件、問題行動、結果を毎日記録することで、行動の要因を探る。</li> <li>・見通しをもって学校生活を送れるように、「予定黒板」や「予定プリント」を導入する。</li> </ul> </td> </tr> </table>	場面・題材等	・「予定黒板」、「予定プリント」、学校生活全般	働きかけ 方法論等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先行条件、問題行動、結果を毎日記録することで、行動の要因を探る。</li> <li>・見通しをもって学校生活を送れるように、「予定黒板」や「予定プリント」を導入する。</li> </ul>
	場面・題材等	・「予定黒板」、「予定プリント」、学校生活全般				
働きかけ 方法論等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先行条件、問題行動、結果を毎日記録することで、行動の要因を探る。</li> <li>・見通しをもって学校生活を送れるように、「予定黒板」や「予定プリント」を導入する。</li> </ul>					
指導の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だち、教師、場所等の写真カードに関心を示した。追いかけてこをしたくて、「よ～いドン」と発語した。見通しをもてる取り組み、「予定黒板」や「予定プリント」によってたたく行動は軽減した。</li> <li>・問題行動を毎日記録することで、その行動の要因について、教師間で話し合うことができ、行動への対応について共通理解ができた。</li> </ul>					

タイトル:見通しをもって、毎日繰り返される活動を行うための支援 ～Y 児の事例を通して～						
4	目標	・少ない指示で、朝や帰りの準備を見通しをもって行う。				
	方法	<table border="1"> <tr> <td>場面・題材等</td> <td>・朝の準備、帰りの準備(ルーティン化された場面)</td> </tr> <tr> <td>働きかけ 方法論等</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真カードの提示</li> <li>・間違える前に正しいものを教える。</li> <li>・かごや着替えコーナーなどの環境設定</li> </ul> </td> </tr> </table>	場面・題材等	・朝の準備、帰りの準備(ルーティン化された場面)	働きかけ 方法論等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真カードの提示</li> <li>・間違える前に正しいものを教える。</li> <li>・かごや着替えコーナーなどの環境設定</li> </ul>
	場面・題材等	・朝の準備、帰りの準備(ルーティン化された場面)				
働きかけ 方法論等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真カードの提示</li> <li>・間違える前に正しいものを教える。</li> <li>・かごや着替えコーナーなどの環境設定</li> </ul>					
指導の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音声言語だけでなく、写真カードの提示や環境設定により、見通しをもつことができた。</li> <li>・一つ一つの活動で何をすればよいかの理解がまず必要だと分かった。</li> <li>・写真カードやわかりやすい環境設定の有効性を感じた。</li> </ul>					

タイトル:時間の見通しをもちにくい生徒への支援のあり方						
5	目標	・心理的に安定して作業を行う。				
	方法	<table border="1"> <tr> <td>場面・題材等</td> <td>・作業学習の時間</td> </tr> <tr> <td>働きかけ 方法論等</td> <td>・減時タイマーを使用することで、作業時間に見通しをもたせる。</td> </tr> </table>	場面・題材等	・作業学習の時間	働きかけ 方法論等	・減時タイマーを使用することで、作業時間に見通しをもたせる。
	場面・題材等	・作業学習の時間				
働きかけ 方法論等	・減時タイマーを使用することで、作業時間に見通しをもたせる。					
指導の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚的な提示により、作業時間に見通しをもち心理的に安定するようになった。</li> <li>・時間という目に見えないものをいかにわかる形で伝えるかの難しさを知った。</li> <li>・減時タイマーの有効性を感じた。</li> </ul>					

平成16年度

6	タイトル:U児の不適切なふるまいへの対応 ～音声言語への移行と楽しみのもてる遊びを見つける～		
	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ことばによる注目要求や行為要求ができる。</li> <li>・物を投げたり落としたりすることなく適切な活動をして過ごせる。</li> </ul>	
	方法	場面・題材等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間における指導場面において自由あそびを設定する。</li> <li>・本児の好きなパズル、本読み、生花などを準備する。</li> </ul>
		働きかけ 方法論等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・注目機能の「叩き」には過剰に反応しない。</li> <li>・教師は積極的に本児に注意を向ける。</li> </ul>
指導の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「叩き」から「叩きと音声言語」の併用を経て「音声言語」へと移行した。</li> <li>・子どもは「便利だと思ったものは使う」ということをこの事例を通して実感できた(叩くよりことばで要求する)</li> <li>・感覚獲得機能の不適切行為の代替行為への移行が課題である。</li> </ul>		

7	タイトル:ブリーフセラピーを生かした生徒と保護者への支援 ～高機能自閉症と睡眠障害をあわせもつ生徒の事例～		
	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・睡眠障害があるができるだけ登校する。</li> </ul>	
	方法	場面・題材等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解決のための内的、外的リソース探し、うまくやれている状況探しをする。</li> <li>・タイムクエスチョン(10年後の自分について語る)やミラクルクエスチョン(問題が解決したときの自分を想定して語る)をする。</li> </ul>
		働きかけ 方法論等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ブリーフセラピー」</li> <li>・「学校が楽しい」「学校へ行きたい」と感じるような環境作り</li> <li>・Y男のペースに合わせた対応や行事の前の励みとなる声かけ</li> </ul>
指導の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家じゅうの時計のアラームをセットして登校した。</li> <li>・出席率が中学1年時は61%であったが中学2年時は80%に増えた。</li> <li>・ブリーフセラピーの手法を活用した取り組みでこの事例では登校意欲に改善がみられた。</li> <li>・医療面との連携が課題である。</li> </ul>		

8	タイトル:不適切な行動の目立つ生徒へのアプローチ ～応用行動分析に基づいて～		
	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不適切行動を起こさなくても教師のかかわりや注目を確実に得ることができるよう「よりよいコミュニケーションを強化」する。</li> </ul>	
	方法	場面・題材等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育活動全体(授業中や休み時間でのかかわり場面)</li> </ul>
		働きかけ 方法論等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動機づけアセスメント尺度を使っでのコミュニケーション機能の分析と代替行動の形成</li> <li>・不適切行動には反応しないように心がける。</li> <li>・教師側からの声かけをこまめにする。</li> <li>・「先生」や「お願いします」などの望ましい行動モデルを提示する。</li> <li>・望ましい行動モデルができたときに褒める。</li> </ul>
指導の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・叩く、蹴る、の攻撃的行動が格段に少なくなった。</li> <li>・「トントンと優しく担任の腕を叩いて呼ぶ」「そおーっと抱きつく」「先生の名前を呼ぶ」「お願いの身振りサインをする」などの望ましい行動が増えた。</li> <li>・不適切行動は無理に取り去ろうとするのではなく、望ましい行動を育てることで結果として軽減することがこの事例では見られた。</li> <li>・今後も生徒の様子をみながら支援を続けていく。</li> </ul>		

		<b>タイトル: A 男のコミュニケーションの幅を広げる取組み</b> ～得意なことを活かした苦手な課題の指導～	
9	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色名や身体部位名がわかる。</li> <li>・場に応じた要求語をふやす。</li> </ul>	
	方法	場面・題材等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リズム遊び「ホーキポーキ」</li> <li>・オセロゲーム、色チップのマッチング、黒ひげ危機一発ゲーム、機織り、アイロンビーズ、刺し子、ティータイム(好きなこと、得意な活動を設定)</li> </ul>
		働きかけ 方法論等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体部位名を選択して歌詞を作る。教師と一緒に指差しリズムダンスをする。</li> <li>・教師と交互にゲームをする。</li> <li>・「～してください」「～をください」を使う場面の設定</li> </ul>
指導の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体部位名は理解</li> <li>・数色の色名はわかる。</li> <li>・「～色をください」「ビーズをください」等「ください」の要求語は言える。</li> <li>・じっくり取り組む姿勢</li> <li>・NC-プログラムの結果と課題設定の関連性</li> <li>・好きなことや得意な活動を取り入れる有効性</li> <li>・事例検討会の有効性</li> <li>・汎化のための他の教師との連携の工夫</li> </ul>		

		<b>タイトル: 食事マナーを通してのコミュニケーション支援</b>	
10	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食場面で要求を伝え、受け止めてもらえる成功体験をふやす。</li> <li>・食事マナーを育む。</li> </ul>	
	方法	場面・題材等	給食場面(要求がしやすい)
		働きかけ 方法論等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おかわりの要求があれば応える。</li> <li>・ひっくり返した場合は、ことばで叱らずお盆を遠ざけて見守る。</li> <li>・適切な要求にはすぐに応え不適切な要求には応えない。</li> </ul>
指導の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コップをそっと出す等おかわりのサインの適切な出し方が増え落ち着いてきた。</li> <li>・スプーン等自分でうまく使おうと努力し、上達してきた。</li> <li>・要求の出やすい場面での指導の有効性</li> <li>・成功体験が増えると情緒の安定につながり、他の場面でも落ち着きが出てくる。</li> <li>・他の教師との共通理解、同じ対応の必要性</li> </ul>		

		<b>タイトル: コミュニケーションがより正確になるための取組み</b> ～朝自習でのプリント学習やパソコンソフトを利用して～	
11	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手紙や日記で正しい言葉遣いの文を書く。</li> <li>・教師とのコミュニケーションがより正確になる。</li> </ul>	
	方法	場面・題材等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝自習の場面</li> <li>・プリント学習(助詞・文節の順序・過去現在形)</li> <li>・パソコンでのゲーム感覚での学習(動きの言葉)</li> </ul>
		働きかけ 方法論等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スモールステップで、間違いの修正をしていく。</li> <li>・教師は本人との気持ちの共有を心がける。</li> </ul>
指導の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日書いている手紙の文章が長くなり、分かりやすくなった。気持ちを表す言葉や修飾語が入るようになった。</li> <li>・要求を適切に伝え、教師の意図も伝わりやすくなった。</li> <li>・毎日短時間の指導を積み重ねていくことの有効性</li> <li>・好きなパソコンの利用で意欲的に取り組めた。</li> <li>・社会生活にも通用するような学習内容の発展</li> </ul>		

タイトル: 自閉症の子どもの対子ども社会性を改善する試み ～RDIプログラムを参考にした小集団活動を通して～		
	目標	・3人の自閉症の生徒の対子ども社会性の改善
12	方法	場面・題材等 ・ばば抜き ・二人同時に台から飛び降りる。 ・黒ひげ危機一発ゲーム(相手を意識し、相手に合わせる、交互に行う活動)
	働きかけ 方法論等	・RDI(自閉症児の対人間関係能力発達のための療育プログラム)の活動課題を参考 ・声を掛け合う等の助言、教師の介入 ・ビデオを見てサンプリング法で観察記録をとる評価方法
	指導の評価	・対子どもへの視線、発話の増加と対大人への視線、発話の減少 ・休み時間における子ども同士のやりとりがみられたという報告あり。 ・RDIの、小集団において相手を意図的に意識させる活動課題の有効性 ・RDIプログラムに則った評価、指導、結果測定を試み

平成17年度

タイトル: 要求対象指示技能を育てる試み ～「チョウダイ身振り」から「視線を伴う手差しや叩き身振り」への移行の試み～		
	目標	・視線を伴う手差しや叩き身振りができる。
13	方法	場面・題材等 ・時間における指導においてシール貼り、おやつ、自転車の3場面の設定 ・おやつや遊びの場面で2種類の写真から希望するおやつや遊びを選択する場面の設定
	働きかけ 方法論等	・本児の「チョウダイ身振り」を教師が模倣する。 ・本児の「チョウダイ身振り」に対して手差しまたは写真をトントンと叩く。本児が手差しや叩きをすると教師が模倣する。
	指導の評価	・「チョウダイ身振り」中に視線を伴う割合が4割から7割に増えた。 ・「手差し」の割合が4割から7割前後に増えた。視線の併用の割合も1割から5割以上に増えた。 ・「子どもの身振り模倣と新たな身振りモデルの提供が伝達性の向上に必要」との先行研究の報告がこの事例でもみられた。更なる定着のための支援が課題である。

タイトル: 意図伝達の明確化をめざす指導 ～身振りサインを伴った音声言語での伝達行動を育む～		
	目標	・言葉に身振りサインを伴って、より明確に意図を伝える。
14	方法	場面・題材等 ・身振りサインかるたでサインの習得 ・落ち着いて集中する、慎重に取り組む、一緒に楽しむ活動(ビーズ通し、絵本読み、ゲーム、ティータイム等)
	働きかけ 方法論等	・マカトンサインを参考にする。 ・教師がサインの見本を示す。 ・活動を教師も一緒に楽しむ。 ・他の学校生活場面でもかかわり、コミュニケーション場面を拡げる。
	指導の評価	・相手へ伝え方を考えたり、サインを使って気持ちを伝える姿の増加 ・身振りサインを連続して使うことで2語文3語文での表現も増えてきた。 ・学習の楽しさ、適期、伝わる経験の積み重ねがサイン獲得に大切 ・本人の伝えたいことに寄り添った言葉(サイン)の選択や本人の発信を待つ姿勢の重要性 ・連携の大切さ ・他の教師や友だちとの間でのサインの使用

平成 18 年度

タイトル:意図伝達の明確化をめざす指導 ～音声言語と身振りサインの併用の指導の試み～						
15	目標	・日頃の生活に使える身振りサインの種類を増やす。				
	方法	<table border="1"> <tr> <td>場面・題材等</td> <td>・時間における指導において「始まり」「終わり」「ちょうだい」「先生」などの身振りサインの模倣を促す。 ・本児が好きな「ぬいぐるみ」「おやつ」「手遊び」「CD」「絵本」の身振りサインの模倣を促す。</td> </tr> <tr> <td>働きかけ方法論等</td> <td>・VOCA に目標とするサインの音声を録音し本児と VOCA で遊びながら習得をめざす。 ・本児が好きな物の写真を一覧にして提示して希望する物の身振りサインを促す。</td> </tr> </table>	場面・題材等	・時間における指導において「始まり」「終わり」「ちょうだい」「先生」などの身振りサインの模倣を促す。 ・本児が好きな「ぬいぐるみ」「おやつ」「手遊び」「CD」「絵本」の身振りサインの模倣を促す。	働きかけ方法論等	・VOCA に目標とするサインの音声を録音し本児と VOCA で遊びながら習得をめざす。 ・本児が好きな物の写真を一覧にして提示して希望する物の身振りサインを促す。
	場面・題材等	・時間における指導において「始まり」「終わり」「ちょうだい」「先生」などの身振りサインの模倣を促す。 ・本児が好きな「ぬいぐるみ」「おやつ」「手遊び」「CD」「絵本」の身振りサインの模倣を促す。				
働きかけ方法論等	・VOCA に目標とするサインの音声を録音し本児と VOCA で遊びながら習得をめざす。 ・本児が好きな物の写真を一覧にして提示して希望する物の身振りサインを促す。					
指導の評価	・実用面で使えなかったがサインを大人とのやりとり遊びで使って楽しむ。 ・目標とするサインが休み時間においても自発的に出現するようになった。 ・教師が「覚えると便利であろう」と提示したサインと子どもが実際に「使いたい」と選ぶサインは必ずしも一致しない。 ・子どもが伝えたいという意欲を育てることがサインの獲得につながることで意欲の向上のための支援が課題である。					

タイトル:意図伝達や表現の明確化を目指す指導 ～50音表や身振りサインを使って～						
16	目標	・要求をわかりやすく相手に伝える。 ・自分の思いを 50 音表を使って表現する。				
	方法	<table border="1"> <tr> <td>場面・題材等</td> <td>・いくつかの活動の選択(絵本読み、ビーズ通し、ペグ刺し、パズル、おやつ等から)</td> </tr> <tr> <td>働きかけ方法論等</td> <td>・「～します」「～しません」の意図の明確化のための教師からの問いかけのパターン化 ・50音表の改良(助詞、数字、要求語の加筆や色別表記) ・やりとりの積み重ね</td> </tr> </table>	場面・題材等	・いくつかの活動の選択(絵本読み、ビーズ通し、ペグ刺し、パズル、おやつ等から)	働きかけ方法論等	・「～します」「～しません」の意図の明確化のための教師からの問いかけのパターン化 ・50音表の改良(助詞、数字、要求語の加筆や色別表記) ・やりとりの積み重ね
	場面・題材等	・いくつかの活動の選択(絵本読み、ビーズ通し、ペグ刺し、パズル、おやつ等から)				
働きかけ方法論等	・「～します」「～しません」の意図の明確化のための教師からの問いかけのパターン化 ・50音表の改良(助詞、数字、要求語の加筆や色別表記) ・やりとりの積み重ね					
指導の評価	・50音表の数字欄、要求語欄、助詞欄も使って伝達できることが増えた。 ・「わかった」「終わり」等の身振りサインを使えるようになった。 ・要求だけでなく気持ちの表現もすることがある。 ・教師のたずね方、道具の改良、本人の発信手立ての習熟の3点からのアプローチが有効 ・好きな活動設定が有効 ・伝わることの楽しさの積み重ねが意欲につながる。 ・連携の重要性 ・家庭での様子の把握が不十分 ・将来につながる音声言語を伴う機器の活用					

タイトル:不適切な行動をする一生徒について、 環境整備等のアプローチにより行動の改善を試みる事例研究						
17	目標	・紙を食べるという行動の減少				
	方法	<table border="1"> <tr> <td>場面・題材等</td> <td>・学校生活全般</td> </tr> <tr> <td>働きかけ方法論等</td> <td>・不適切な行動が見られる活動、場所等を毎日記録することで、行動の要因を探る。 ・見通しをもちやすい環境設定を行う。</td> </tr> </table>	場面・題材等	・学校生活全般	働きかけ方法論等	・不適切な行動が見られる活動、場所等を毎日記録することで、行動の要因を探る。 ・見通しをもちやすい環境設定を行う。
	場面・題材等	・学校生活全般				
働きかけ方法論等	・不適切な行動が見られる活動、場所等を毎日記録することで、行動の要因を探る。 ・見通しをもちやすい環境設定を行う。					
指導の評価	・環境設定により視覚刺激を遮断したり、見通しをもって行動することにより、心理的に安定することで、不適切行動が激減した。 ・不適切な行動の要因を探ることや行動特性の理解の重要性を感じた。					



平成19年度

タイトル:他傷行為に対する支援策の検討		
18	目標	・落ち着いた学校生活をおくる。
	場面・題材等	・学校生活全体における指導(休み時間や授業中、給食時間、掃除の時間などの場面)
	働きかけ 方法論等	・休み時間や移動時には教師も一緒にいるようにする。 ・興奮している様子が見られたら周囲から離す。 ・スケジュールを提示して見通しをもちやすくする。 ・褒める機会を意識的に設定して自己有能感を増やすことで不安や緊張に対する許容量を増やす。 ・追いかけてこやくすぐり遊びなど本人にとって楽しく過ごす時間を増やす。 ・個別学習の時間を増やして心理的安定をはかる。 ・服薬を試みる。
指導の評価	・以前は他傷行為が見られた場面で今は見られない場面がある。 ・他傷行為の種類や理由が複数あることがこの事例では見られた。 ・「してはいけません」と自分で言いながら他傷行為をする場面が見られることについてその理由を考えていくことが課題である。	

タイトル:パニックを起こす生徒への支援のあり方		
19	目標	・得意な活動に集中して取り組む。 ・困った場面で、要求を伝えることができる。 ・落ち着いて学校生活を送る。
	場面・題材等	・手先の器用さと認知力を活かせる「ビーズ通し」 ・各色を記号で表した図案を見ながら集中して取り組む。 ・時間いっぱい一つの活動に取り組む。 ・学級、グループ学習の場面でも適切な対応を行う。
	働きかけ 方法論等	・教師は見守りに徹し、本人のペースを尊重する。 ・褒める・認める言葉掛けを心がけ、本人の気持ちに共感し、また、要求があればすぐに応じるようにする。 ・本人の気持ちに添った対応 ・個別指導の積み重ね
指導の評価	・自立活動中にパニックになることは全く無い。 ・ビーズ通しには、よく集中して取り組んでいる。 ・困難な場面でも落ち着いて要求したり、自分で判断したりする姿が見られる。 ・パニックの頻度減少 ・充実した活動の積み重ねは、心理的な安定をもたらす。 ・じっくり向き合う場面の保障 ・ケース検討会の重要性 ・教師の共通理解、連携の大切さ ・保護者への指導の難しさ	

タイトル:生徒Tの「たたく」行動の軽減を求めたアプローチ		
20	目標	・たたく行動の減少
	場面・題材等	・学校生活全般
	働きかけ 方法論等	・たたく行動が見られる活動、場所等を毎日記録することで、行動の要因を探る。 ・見通しを持ちやすい環境設定を行う。
指導の評価	・たたく行動に対し「×」と伝えることによりたたく行動は減少したが、気分の高揚時はたたく行動は頻回である。行動の記録により、たたく行動が特定の活動を中心に見られることが分かったが、たたく行動の要因を読み取ることができなかった。	

21	タイトル:S 男の「噛み付く」という行動の軽減をはかって	
	目標	・噛み付き行動の軽減
	場面・題材等	・学校生活全般
	方法 働きかけ 方法論等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の切れ目に予定表を提示し、次の活動の見通しを促す。</li> <li>・日常生活全般で、コミュニケーションカードの使い方を示す。</li> <li>・「だめ」「あとで」「そっと」の声かけで、したいことができるとき、できないときがあることや、力の加減などを示す。</li> </ul>
	指導の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予定表やコミュニケーションカードを使えるようになったことが、「噛み付く」行動に至るストレスを軽減することにつながった。</li> <li>・また、「そっと」「あとで」などの言葉による指導も大切であることが再認識できた。</li> <li>・子どもと共感することも大切である。</li> <li>・今後は特定の人に対してだけでなく、幅広い人に対してもコミュニケーションをとれるように汎化していくことが必要</li> </ul>